

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-153	A-152	21-034 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
<p>Low-to-Moderate Alcohol Intake Associated with Lower Risk of Incidental Depressive Symptoms: A Pooled Analysis of Three Intercontinental Cohort Studies.</p> <p>低中等量のアルコール摂取とうつ症状発症リスクとの関連：3 大陸コホート研究のプール分析</p>		
執筆者		
Liang L, Hua R, Tang S, Li C, Xie W.		
掲載誌		
J Affect Disord. 2021 May 1;286:49-57. doi: 10.1016/j.jad.2021.02.050.		
キーワード		PMID
アルコール摂取, コホート研究, うつ症状, 低中等度飲酒		33676263.
要 旨		
<p>背景: 長期的な低中等量のアルコール摂取とうつ症状の関連については、関連がないとするもの、予防的あるいはリスクとする報告があるなど一貫していない。</p> <p>方法: 低中等量のアルコール摂取とうつ症状発症リスクとの関連について、中高年と高齢者を含む、欧州 (English Longitudinal study of Ageing (ELSA))、米国 (Health and Retirement Study (HRS))、中国 (China Health and Retirement Longitudinal Study (CHARLS)) のコホート研究をプールした解析で検討した。うつ症状は CES-D (The Center for Epidemiologic Studies Depression Scale) の 8 項目または 10 項目で評価した。</p> <p>結果: 29,506 名 (女性 55.5%) を対象に、278,782 人年の追跡期間中に、8,252 名 (CHARLS:2,083 名, ELSA:2,037 名, HRS:4,177 名) のうつ症状の発症が確認された。非飲酒者に対して、低中等量のアルコール摂取者では、うつ症状の発症は有意に低かった (男性 HR=0.87 (95%CI: 0.79-0.96), 女性 HR=0.87 (95% CI: 0.80-0.95))。一方、多量飲酒者においてリスクが高い傾向はみられなかった。スプライン曲線による検討では、中国人男性、米国男性、欧州の男女において、J 字型の関連が認められた。</p> <p>結論: 非飲酒者に比べ、低中等量のアルコール摂取者におけるうつ症状の発症は有意に低かった。現在の米国のガイドラインにおける中等度飲酒の閾値を指示する結果であるが、中程度の飲酒者であっても、大量飲酒の習慣を身につけ、将来アルコール関連の問題を経験する危険性があるなど、ガイドラインを遵守しているといえども注意は必要ではある。</p>		